

未来へつなげ!

# 復興のバトン



東日本大震災津波の記憶と教訓を次世代へ。復興と共に進む方々を紹介します。

第6回 一般社団法人SAVE IWATE

復興ぞうきん紡ぎ組の皆さん



復興ぞうきん紡ぎ組の皆さん。上段の右から3番目が、河村光子さん。

## ひと針ひと針に感謝の気持ちを紡ぐ

東日本大震災津波後の2011年4月、「復興ぞうきんプロジェクト」

は、一般社団法人SAVE IWATEの声掛けから始まりました。当時、内陸の避難所で生活する方々の多くが、故郷のことを想い、心を閉ざしがちになっていました。やることのない避難所暮らしの中、何かに没頭することで、少しでも気を紛らわしてもらったのが「復興ぞうきん」でした。

それから10年。復興ぞうきんは今も、沿岸部と、内陸に移住した縫い手さんたちによって、紡がれています。SAVE IWATEのスタッフと縫い手さんたちによって構成される「復興

ぞうきん紡ぎ組」は、宮古市と盛岡市で活動しています。取材に訪れたこの日は、もりおか復興支援センターでのサロンに9名の縫い手さんが集まりました。

大槌町から盛岡市に移住した河村光子さんは「二人で家にいたら気が滅入ることもあるけれど、月に2回、皆さんに会って、おしゃべりすると、こちらも元気をもらえます」と、微笑みます。

支援への感謝の気持ちを込めてひと針ひと針。紡ぎ組の復興ぞうきんは、今では全国で使用されています。「購入者や支援者の方々から、お礼や励ましのメッセージをもらうと感謝の気持ちでいっぱいになるのよ」と、紡ぎ組の皆さんは声を揃えます。

震災から10年、そしてこれからも。復興ぞうきんのふわりとした優しい手触りとともに、感謝の輪が広がっています。



自宅で縫いあげたぞうきんを検品し、製作者の出身地と名前を書いたラベルをつけて完成。購入代金の一部が、被災者の収益となります。



「復興ぞうきん」は、支援物資のタオルを素材に、カラフルな糸で縫われています。デザインは幾何学模様から、オリジナルの柄までさまざま。ぞうきんとしてはもちろん、赤ちゃんの枕カバーや花瓶の下敷きなど、用途が広く、使う人を選びません。盛岡市役所向かいの「りあすぱーく」で購入できます。

### 一般社団法人SAVE IWATE

震災直後から、内陸に避難した被災者に情報や支援物資の提供を開始。職を失った被災者に仕事を作り、収入を得られるよう支援も行う。「復興ぞうきん」の他にも「和グルミプロジェクト」や「羅針盤プロジェクト」などに継続して取り組んでいる。

岩手県盛岡市中野1-10-31  
TEL 019-601-6482  
<https://sviwate.wordpress.com/>

